徳島県
吉野川市
YOSHINOGAWA CITY



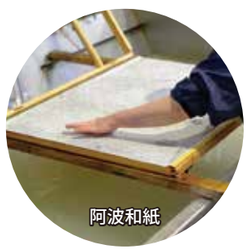
- 人口 35,556 人、15,233 世帯
（令和７年国勢調査）
- 面積 144.14k ㎡

吉野川市は、徳島県北部のほぼ中央、清流「四国三郎」吉野川の中流域南岸に位置し、市の南部には高越山をはじめとする四国山地の山々が連なっています。吉野川と山々がもたらす豊かな水や温暖な気候に恵まれ、国の天然記念物に指定されている美郷のホタルや船窪のオンツツジ群落など、四季折々の美しい自然が育まれています。こうした自然の恵みを生かした全国初の「梅酒特区」による梅酒づくりや、1300 年の歴史をもつ伝統産業の阿波和紙など、豊かな自然と産業、歴史や文化が調和した、穏やかで魅力あふれるまちです。

●主な特産品等









●市内の主な観光名所





北海道
仁木町
NIKI TOWN



- 人口 3,188 人、1,659 世帯
（令和７年国勢調査）
- 面積 167.96k ㎡

仁木町は北海道南西部積丹半島の付け根に位置しています。余市町を隔てて石狩湾に面しているため、対馬暖流の影響を受け四季を通じて温暖多湿、そのうえ、東西の山々が自然の防風壁となって強風も少なく、豪雪地帯に指定されていますが、根雪期間は短く、霜も少ないので農作物の栽培に適しています。さくらんぼ、ぶどう、プルーンなどの果樹栽培、ミニトマトなどの施設野菜、お米の生産などのほか、近年は次々と新たなワイナリーやヴィンヤードが誕生しており、特色あるワイン産地として発展を続けています。

●主な特産品等









●町内の主な観光名所





吉野川市 × 仁木町

共創パートナーシップ協定締結式

CO-CREATION PARTNERSHIP

徳島県
吉野川市
YOSHINOGAWA CITY

北海道
仁木町
NIKI TOWN

令和8年（2026年）10月26日（月）　午後4時～

北海道仁木町役場庁舎／３階　議会議場

徳島県
吉野川市
YOSHINOGAWA CITY

市　長　原井　敬



このたび、徳島県吉野川市と北海道仁木町は、共創パートナーシップ協定を締結する運びとなりました。この節目を迎えることができましたことを、大変うれしく、また感慨深く感じております。これまで両地域の交流を支えてこられた多くの皆さまのご尽力に、心より感謝申し上げます。

吉野川市（旧麻植郡川島町）と仁木町は、明治以来の深い歴史的なつながりを礎に、これまで交流を育んできました。今回の協定は、二十数年ぶりに本格的な交流を再開するものであり、過去の関係をそのまま取り戻すのではなく、これまでの絆を大切にしながら、これからの時代にふさわしい新たな関係を築いていくための出発点であると考えております。

「共創パートナーシップ」という名称には、両市町が対等なパートナーとして、それぞれの強みや魅力を持ち寄り、ともに新たな価値を創り出していきたいという思いを込めています。行政同士の交流にとどまらず、市民や事業者、地域で活動するさまざまな方々がつながり、互いの知恵や経験を生かすことで、これまでにはなかった交流やビジネス、地域の活力を生み出していきたいと考えております。

今後は、産業、観光、文化、教育など幅広い分野で連携を深め、両市町の魅力を互いの地域に発信するとともに、より多くの方に両市町を知り、訪れ、関わっていただける取り組みへと発展させていきたいと考えております。

今回の協定を新たなスタートとして、吉野川市と仁木町が互いに学び、支え合い、ともに成長していくことで、交流人口や関係人口の創出、さらには地域の持続的な発展につなげてまいります。

先人たちがつないでくださったご縁を大切に、今を生きる私たちが新たな形で未来へとつなぎ、仁木町の皆さまと力を合わせて、新たな交流を育んでまいりたいと考えております。末永いパートナーシップを、どうぞよろしくお願い申し上げます。

交流のあゆみ

明　治

明治 12 年（1879 年）11 月
阿波国（現徳島県）の仁木竹吉が
同志 101 戸、361 名を率い、小樽港に上陸
余市町を経て仁木村に入植

明治 13 年（1880 年）3 月
仁木村の設置を布告

昭　和

昭和 49 年（1974 年）5 月
川島町と仁木町が姉妹町盟約調印
川島町長、川島町議会全議員が仁木町を訪問

昭和 50 年（1975 年）8 月
川島町から阿波踊り親善一行が来町

昭和 54 年（1979 年）6 月
仁木町開基 100 年記念行事の一環として
川島町訪問研修団が仁木町を訪問

平　成

平成元年（1989 年）11 月
仁木町開基 110 年記念表彰にて
元川島町長木野久夫氏に感謝状を贈呈

平成 6 年（1994 年）10 月
仁木町町制施行 30 周年記念式典に
川島町内田町長などが出席

平成 8 年（1996 年）7 月
ゆかりの旅事業として、仁木町内の小学 6 年生が
川島町を訪問（以降平成 16 年度まで実施）

平成 13 年（2001 年）2 月
川島中学校 2 年生が修学旅行で
仁木町を訪問。（以降平成 16 年度まで実施）

平成 16 年（2004 年）10 月
川島町の合併、吉野川市誕生により
姉妹町盟約解消
（姉妹町盟約解消後も住民同士の交流などが続く）

令　和

令和 6 年（2024 年）8 月
仁木町子ども交流事業として
仁木小学校、銀山小学校児童が吉野川市を訪問。

令和 8 年
2026
共創パートナーシップ

共に未来を創る新たなステージへ

北海道
仁木町
NIKI TOWN

町　長　佐藤聖一郎



このたび、北海道仁木町と徳島県吉野川市は、共創パートナーシップ協定を締結する運びとなりました。両自治体の皆さまのご理解とご支援に、心より感謝申し上げます。

吉野川市と仁木町との縁は、明治 12 年に阿波国麻植郡児島村（現吉野川市）生まれの仁木竹吉翁が同志 101 戸・361 名を率いて現在の仁木町に入植されたことにさかのぼります。翌明治 13 年には仁木村が誕生し、両地域の深い絆が始まりました。厳しい北海道の自然環境の中、故郷を遠く離れ、荒れ地を切り拓き、果樹栽培をはじめとする豊かな農業の礎を築いた先人たちの苦労と情熱は、今日の仁木町の誇りです。その不屈の精神は世代を超えて受け継がれ、現在の仁木町を支える大きな力となっています。

その深い縁を礎として、仁木町はかつて旧川島町と姉妹町盟約を結び、その後、吉野川市への合併に伴い、姉妹町盟約を解消した後も、両地域の人々の間に息づく絆は途切れることなく静かに受け継がれてきました。このたびの共創パートナーシップ協定の締結は、その長い歴史と絆を改めて確かめ合い、次の世代へと引き継ぐ大切な節目と深く受け止めております。

今後は、農業をはじめとする産業・観光・文化・教育など幅広い分野において連携を深め、両市町の強みと個性を活かしながら、ともに地域の未来を切り拓いてまいりたいと考えております。両市町がそれぞれ培ってきた経験や知恵を共有し合うことで、互いの地域がさらに発展していくことを確信しております。この連携が両市町の住民の皆さまにとって新たな出会いと交流のきっかけとなり、豊かな未来へとつながっていくことを心から願っております。

吉野川市の皆さまとともに、先人たちへの敬意を胸に、未来へ向けた新たな歴史を刻んでまいりましょう。末永いパートナーシップを、どうぞよろしくお願い申し上げます。